

平成 29 年度墨田区立第三吾嬬小学校経営報告書

平成 30 年 2 月 19 日

学 校 目 標	「よく考える子、健康で明るい子供、責任感の強い子供、こころ豊かな子供」の育成
目 指 す 学 校 像	教師は子供と向き合い、子供が夢や希望、楽しみをもって学べる学校
目 指 す 子 供 像	自らを律する力を持ち、地道な努力を惜しまず、粘り強く頑張る子供
目 指 す 教 師 像	「全ては子供たちのために」を念頭に職務に専念する教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	・国語力の向上はめざましく、安定した学力がついてきた。これを他教科の学習に発展させていくことが今後の課題である。今後は、 ・ICT 機器活用等の手法も取り入れた授業改善を実施していく。	B	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	中川コミュニケーションスクールが校内で授業を実施するようになり、児童・保護者のニーズに応えられている。次年度は特別支援委員会などの開催日数を増やし、一層の連携教育を進めていきたい。	B	B
	学校は、子供の将来の自立に向けた教育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	・キャリア教育の側面にやや不足を感じるが、これは、実践をキャリア教育の視点での位置づけが足りなかったことによる。キャリア教育として体系的に位置づけ、各活動を実施していく。 ・スクールカウンセラーの活用状況は順調であり、児童・保護者・学校のニーズに応えられている。	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	A	・国語研究授業 6 回、言語能力を活用した他教科の研究授業 3 回を実施し、授業力向上に努めた。次年度は、培った言語能力を生かし、ICT 活用も含めた“21 世紀型学力の育成”を主題に掲げた研究活動を進めていく。	B	A
	学力向上を支える取組	C	・学校での図書館利用は、貸し出し数 30,000 冊を越えたが、家庭での読書習慣が不足している。PTA と連携した読書活動を展開していく。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		学力の向上は、大変望ましく保護者・地域が願っていることである。今後ともさらに努力をお願いしたい。アクティブラーニングが話題になっているが、教科の進度は遅れないか心配である。全ての指導が AL 的に実施することは難しいのではないか。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	・毎週の学年会での課題の洗い出しや生活指導夕会での共通理解を進め、組織で対応する生活指導をさらに進めていく。 ・ケース会を中心とした生活指導課題の対応部会を充実させていく。	B	B
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	・いじめ防止や人権を守る授業はさらに進めていく。 ・朝遊びを推奨し、学校に楽しみをもって登校できるようにしていく。 ・理由の無い遅刻・欠席をさらに減少させるために、早期対応をさらに進めていく。	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	・火災・地震・洪水・不審者侵入対応の訓練は成果を上げている。今後も、危機回避能力を育成する訓練を設定していく。 ・下校時の交通事故対策を次年度は実施する。	B	B

様式 4

	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	・行事毎の意見や感想の集約、“学校をさらによくするアンケート”などを活用し、意見や要望を把握し対応策を立案していくようにする。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・いじめのない学校が地域・保護者の願いである。しかし、いじめや生活指導上の課題はどの学校でも置きうることであるため、課題が発生した際には、学校が全力でこれに取り組んでいただきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針のもとに、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	・今年度までの運営組織の改編を実施し、情報伝達がより。円滑になる校務分掌組織を構築する。 ・校内研究のさらなる成果を上げるような組織改編を行う	B	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	・新学習指導要領の移行措置期間に当たるため、学力向上を図るための計画を全面的に見直す。 ・基本的な生活習慣、自他を尊重する心の教育の育成計画の見直しを図る。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	・教育活動が児童・来校者に見える校内環境を整備する。 ・清掃活動や靴箱・教室環境の整備を通して、生活場面を自分たちの手で整えていく心を育てる。	B	A
	サービス事故の予防と対応	A	・体罰やサービス事故が起きないように、毎月のサービス事故防止研修を実施すると共に、区や都からの情報は管理職の解説を付して紹介し、サービス事故防止に向けた意識を高める。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・新指導要領の移行措置には履修漏れなどの無いよう、しっかりと取り組んで欲しい。 ・校内環境はよく整備されているが、児童の心の教育と密接なつながりがあるため、さらに留意されたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	A	・学校日よりや学年日よりなどの紙面を、保護者に読んでいただけるよう、ビジュアル的にも工夫をしていく。 ・保護者全体会の参加者が増えてきているため、一層の努力を図り、学校の情報を広報していきたい。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	A	・教職員の保護者対応や地域・PTA 行事への参加は高い評価を得ている。今後も、丁寧な保護者対応、地域・PTA 行事への協力をしていきたい。	B	B
	幼保小中一貫教育の推進	B	・次年度は、幼保小では接続プログラムを話し合い、小1ギャップの解消に努めていく。また、小中では授業交流を始めとした交流活動を一層活性化し、児童の中学校進学への障壁を少なくする。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	・地域の中の学校として、次年度からも学校・地域・保護者の一層の協力関係を維持していただきたい。 ・各種たより、ホームページなどを工夫し、引き続いて情報の発信に努めて欲しい。			

2 平成29年度学校評価のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、第三者評価を受ける年度であった。評価は、大項目は全て A 評価をいただいたため、一層の努力を継続していきたい。授業改善では、理科・社会の学力の向上が課題であり改善努力を図りたい。 ・保護者会や講演会等の保護者の参加を促す改善策を考え、学校情報の一層の伝達を図りたい。 ・第三者評価・保護者の評価・評価委員会の評価でも高い評価をいただいた。次年度も三吾教育の質向上に努力したい。
--

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三吾婦小 学校 校長 金谷 政一

様式 4